

### 3年生社会科の実践

#### 1 単元名 見直そう私たちの買い物

#### 2 単元目標

- 買い物調べやスーパーマーケットの見学を通して、よりよい生活を求める消費者の工夫や努力をとらえ、それと関連づけながら、販売に携わる人々が様々な工夫や努力をしていることを理解する。
- 販売の仕事や努力、商品の仕入れを通して他地域とのつながりをとらえ、販売の仕事が自分たちの生活を支えていることに気づくとともに、上手な買い物の仕方について考え、消費者としての意識を高めることができるようにする。

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	知識・理解
・地域の人々の販売の仕事の様子に関心をもち、意欲的に調べることを通して、自分たちも工夫して消費生活を営んでいこうとしている。	・地域の人々の販売の仕事の様子から学習課題を見いだして追究し、販売の仕事に携わっている人々の工夫や努力、自分の暮らしと販売の仕事のつながり、上手な消費生活の仕方について思考・判断したことを、適切に表現している。	・家庭の買い物の様子や地域の人々の販売の仕事の様子について、的確に見学・調査したり、具体的な資料を活用したりして、必要な情報を集め、読み取ったりまとめたりしている。	・地域の販売の仕事に携わっている人々は、消費者の求めに応えられるよう、様々な工夫や努力をしていることや、販売の仕事は他地域とむすびについていること、自分たちの消費生活を支えていることを理解している。

#### 3 ひびき合う子どもたちをめざすための指導の工夫

中学年ブロックテーマ「追究する力、仲間と支え合う自分」

- ・自分の問題をとことん追究する姿
- ・仲間と協働して追究する姿

研究課題「切実な問題意識を持ち、友だちと関わり合いながら学習する子どもの育成」

手だて・・・子どもの「切実な問題」を見とった単元構想と授業づくり

#### (1) 単元と指導

##### ①単元について

この単元は、学習指導要領の内容(2)を受け、販売者側の工夫と消費者側の工夫に気づき、消費者としての意識を高めていくことができるように、買い物調べや店の見学を中心に設定している。

(2)地域の人々の生産や販売について、次のことを見学したり調査したりして調べ、それらの仕事に携わっている人々の工夫を考えるようにする。

- ア 地域には生産や販売に関する仕事があり、それらは自分たちの生活を支えていること
- イ 地域の人々の生産や販売に見られる仕事の特徴及び国内の他地域などのかかわり

児童の実態にも書いたように、販売者の工夫や消費者の工夫に気づいている児童は少ない。そこで、この単元では、「買い物調べ」から学習をスタートさせていく。普段意識していない「買い物」について調べることで、「なぜそこで買い物をするのだろう。」「たくさんの人が行くお店にはなにか秘密があるのかな。」といった疑問が生まれてくる。その疑問を実際に地域にある商店に行き行って調べ活動を行い解決していく中で、自分たちの生活に大きく関わる消費活動について考えていくことをねらいとしている。

現代社会の消費活動は、核家族化や、夫婦共働きの増加、不景気経済の煽りなどを受けて、多様化している。そして、販売活動もまた、それを受けて多様化している。また、この地域は商店街や個人商店・専門店、スーパーマーケットが混在しているが、消費者の足の多くがスーパーマーケットに向いている。それは、スーパーマーケットが消費者のニーズに応える形ではじまり、成長・発展を遂げてきたからだろう。スーパーマーケットは消費者から信頼を得るために、商品の安全性や新鮮さなどに重きを置いた商品管理に努め、安価でかつ安定した価格での供給を心がけてきた。また、店内を一周するだけで、その日の食事のメニューの材料が全て揃えられてしまうような充実した品揃えや、商品の並べ方、掲示の仕方、魚の調理やすぐ食べられる惣菜の販売、タイムセール、ポイントカード、など「ついつい買ってしまう。」消費者の心理をうまくついている。また、駐車場やバリアフリーの整った施設整備などもそれにあたるだろう。スーパーマーケットを学習することで、自分たちが買いやすいと思って行っていた

裏には、大変な努力と工夫、そして「安全でよい物を、多くの人に買って欲しい。」という、販売者としての思いがあることに気づいて欲しい。

また、児童の実態を受けて、個人商店・専門店のよさにも気づいて欲しいと考えた。個人商店・専門店は、品質のよさや安全性だけでなく、物を介した人と人との繋がりを大切にしている。専門に扱っているからこそわかる、料理の仕方、お勧めの商品など話をしながら買い物ができるのは消費者にとって安心である。スーパーマーケットとの違いに目を向け、個人商店・専門店のよさにも気づいて欲しい。

さらに、児童の生活には、コンビニエンスストアでの買い物も身近である。スーパーマーケットよりも少し高価の物が多いが、24時間開いていて必要な時に買うことができる。また、消費者のニーズにいち早く応えることでより多くの消費者を獲得したいという販売者の思いから、物流システムのスピードは群を抜いている。そうした回転の速さから、商品の陳列や新商品の開発といった点に努力と工夫がされている。スーパーマーケットや個人商店・専門店と同様に、コンビニエンスストアにも努力や工夫があることに気づいて欲しい。

このように、それぞれのお店の工夫や努力、よさを知ること、消費者として店を選択していく力を身につけて欲しいと考えている。

## ②学習過程について

買い物経験の少ない児童の実態をふまえ、「遠足のお菓子調べ」を行い、お菓子をどこのお店で買ったか、どうしてそのお店で買ったかについて調べることを導入とする。その結果から、「お菓子だけでも、みんなお店を選んで買っている。」「他の買い物はどうなのだろう。」「買い物っておもしろいな。」といった、買い物への興味・関心を持つことから、「買い物調べ」へと結びつけていきたい。1週間、家の人の買い物について、どのお店に行っているのか、どうして行くのかを調べることで、消費者側の工夫やお店になにか工夫やひみつがあるのではないかとすることに気づけるようにしたい。また、個人商店・専門店の利用者の少なさにも目が向くと考える。多くの個人商店・専門店が点在する学区に住んでいるにも関わらず、利用者が少ないという事実は児童の知的好奇心を揺さぶると考える。このことから「なぜみんなは専門店で買い物をしないのだろうか。」「専門のお店だから味はおいしいのに。」「みんながよく行くスーパーには人気のひみつがあるんじゃないか。」といった、疑問を抱き、そこから「スーパーマーケットの利用者は多く、個人商店・専門店の利用者が少ないのはなぜだろう」という切実な問題が生まれると考える。そこで、スーパーマーケット、個人商店・専門店、コンビニエンスストアのよさについて調査活動を行っていき、それぞれの店のよさや工夫、努力について情報を集め、調べてきたことを共有していく。調査の前には予想をするが、予想していたこととは違う情報が集まることにより、販売者側の工夫や努力に目を向けられるようにしたい。また、調査を通して、どのお店も消費者の求めに応えるために様々な努力や工夫をしていることを知り、「どのお店にもよさがある。自分たちが買い物をするときにはどのお店で買おうかまよう。」「魚屋、肉屋、八百屋のよさがわかったから、今度買い物に行ってみよう。」「これからはお店を選んで買い物をしようと思う。」といった、消費者側の視点となり、よりよい買い物の仕方について考えはじめるだろう。そこで、「お楽しみ会」を開くこと、料理を作ることを伝える。2年生の時にさつまいも料理を作った経験がある児童は、料理を作るためには作り方を調べることや材料を準備することが必要なことに気づく。そこで、「材料はどうする。」「どこで買う。」「スーパーなら一度に買えるからスーパーにしよう。」「おいしい物を作りたいから、専門店で買おう。」など、「どこで、どのように買い物をするとよいか」という切実な問題が生まれると考える。この問題を解決するため、今まで調べてきたことを根拠に「上手な買い物の仕方について」考えていくようにする。

この単元では、児童の「知りたい」「このように調べて行きたい」という思いを中心にしながら調査活動を進めて行きたい。児童の思いや考えを大切にしながら、学習計画を児童と一緒に立てて行くことで、ここでもさらに切実さや知的好奇心が生まれると考える。また、調査活動では自分の考えを持って見学に行けるように、調査の前に必ず予想の時間をとり、どんなよさや工夫があるのか、どうしてなのかをしっかりと考えてから調査へ行くようにする。予想と比べて検証することや、初めて知ることなどの経験を通して、見学へ行って調べることや、実際に自分の目で見ること、話を聞いて学習を進めていくことの喜びを味わわせたい。

## ③追究する力、仲間と支え合う自分

この単元では、スーパーマーケットでの調査活動を通してたくさんの事実を見つけ、「スーパーマーケットのよさ」を考えていくことを、1つめの追究として考えた。そして、わかった事実をふまえて、「個人商店・専門店のよさ」を考え、スーパーマーケットのよさと比べていくことを2つめの追究と考

えている。さらに、スーパーマーケット、個人商店・専門店のよさについてわかった事実をふまえ、「上手な買い物の仕方」について考えていくことを3つめの追究と考える。

また、調べてきたことをみんなで共有しようとしたり、全体での話し合いの前にグループで情報交換をしたりすることで、お互いが支え合っているという実感を持てるようにしていきたい。さらに、話し合いの場面では、自分や友だちの考えを大切にしていけることで支え合いを実感できるようにしていきたい。

#### ④ひびき合いについて

ひびき合い、関わり合うために、見学して学んだことを一度しっかりと見直す時間を設け、まずは自分の考えをしっかりと持てるようにする。自らわかったことをまとめ思考した後に、グループでわかったことや考えたことをまとめる時間をとり、予想したことや経験してきたことをお互いに比べることができるようになる。これらの活動を通して、自分のわかったことだけでなく、仲間が見つけたことに納得したり疑問をもったりする場面でひびき合いが見られると考える。

本時では、今まで調べてきたそれぞれのお店のよさを根拠に上手な買い物の仕方について考える。自ら考えを持ち、グループの仲間の考えに触れ、他のグループの考えに触れる中で、何を大切にしていけるか、何を大切にしていけるかを思考しながら、消費者としての意識が高まっていく様子をひびき合いとしていきたい。

### 4 単元指導計画 (全18時間+総合5時間)

次	時	学習活動	主な支援・留意点【評価】
1	① ④	<p>○遠足のお菓子について調べよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>遠足で持って行くお菓子をどこの店で買ったかについて話し合い、買い物についての意欲を持つ。</li> </ul> <p>○買い物調べをしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>買い物について調べ、行った店やその理由を記録する。</li> <li>調べて分かったことを話し合い、グラフに表す。</li> <li>結果から分かったことをまとめ、学習課題を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>買い物の仕方について関心をもち、学習への意欲を高める。</li> <li>買い物調べカードに必要なことを記録する。そして、クラス全体の数を集計して、表やグラフへ表し、学習課題を設定できるようにする。</li> </ul> <p>【関心・意欲・態度】【思考・判断・表現】 【観察・資料活用の技能】</p>
2	⑤ ⑮	<p>○スーパーマーケット(小田原百貨店)の人気の秘密を調べよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スーパーマーケットの人気の秘密を予想し、調べたいことを考え、見学の計画を立てる。</li> <li>スーパーマーケットに見学へ行く。</li> <li>人気の秘密についてわかったことをまとめる。</li> </ul> <p>○専門店やコンビニにも、よさや工夫はあるか調べよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれのよさについて予想を立てる。</li> <li>それぞれのお店に見学へ行く。</li> <li>それぞれのお店のよさや工夫についてわかったことをまとめる。</li> <li>それぞれのお店のよさについて、スーパーマーケットと比べながら話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人がたくさん行っているスーパーマーケットの人気の秘密を予想させ、分からないことや知りたいことを明確にさせる。</li> <li>設備や仕事についての視点を持ち、工夫を調べられるようにする。</li> <li>それぞれの店で見つけてきたよさとスーパーマーケットのよさを比べられるようにする。</li> <li>消費者と販売者双方の視点を扱うことで、そのつながりに気づけるようにする。</li> </ul> <p>【関心・意欲・態度】【思考・判断・表現】 【知識・理解】【観察・資料活用の技能】</p>
3	⑯ ⑱  総合⑤	<p>○上手な買い物の仕方を考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分が買い物をする際、どこでどのように買い物をしたいか考える。(本時)</li> </ul> <p>○学習を生かして買い物をしてみよう(総合)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>カレーかピザトーストを作る計画を立てる。</li> <li>グループごとにわかれて買い物に行き、調理し、食べる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>買い物をするためにはどのようなことに気をつければよいか、これまでの学習を振り返り、話し合うようにする。</li> <li>これまでの学習内容を生かして、自分が買い物をしたいところを選択できるようにする。</li> </ul> <p>【関心・意欲・態度】【思考・判断・表現】</p>

【単元目標】買い物調べやスーパーマーケットの見学を通して、よりよい生活を求める消費者の工夫や努力をとりえ、それらと関連づけながら、販売に携わる人々がさまざまな工夫や努力をしていることを理解する。  
 ・販売の仕事の工夫や努力、商品の仕入れを通して他地域とのつながりをとりえ、販売の仕事が自分たちの生活を支えていることに気づくとともに、上手な買い物の仕方について考え、消費者としての意識を高めることができるようにする。

**興味を持つ** 遠足のお菓子について調べよう。

- ・おまけをしてくれるからにいくりに買いに行く。・好きなお菓子が売ってるから小田百で買う。・家の近くのセブンで買うよ。
- ・休みの日にお家の人と買いに行くから、イトーヨーカドー。・遠足のおやつを買うのね、みんな違うお店で買うんだ。
- ・お店を選んで買いに行くんだ。・お家の人も、お店を選んで買い物をしているのかな？

**課題設定** それぞれの家では、どこでどんな買い物をしているか、買い物調べをしよう！

※日にち、天気、店、買った物、行った理由、思ったこと。一週間分をグラフに表す。

- ・小田百で買っていたよ。・ユータカラ屋で買っていたよ。・ラスカルの1階で買っていたよ。
- ・うちは、お肉はなかかわ精肉店で買っていたよ。・朝早く牛乳がなくて、セブンに買いに行っていたよ。

**スーパー**

- ・安いから。
- ・いろいろな物が売っているから。
- ・チラシがあるから、安いものを見て買いに行けるから。
- ・駐車場がたくさんあるから。
- ・家から近いから。

**専門店**

- ・必要な量を買えるから。
- ・種類がたくさんあるから。
- ・質のいい物が売っているから。
- ・家から近いから。

**コンビニエンスストア**

- ・24時間開いているから。
- ・お弁当とかすぐ食べられるものが売っているから。
- ・家に近いから。
- ・夜遅くても、朝早くても買えるから。

**宅配・通販**

- ・家で運んでくれるから。
- ・外に出ないでも買い物ができるから。
- ・カタログをゆっくり見えて、欲しい物が選べるから。

**課題追究** スーパーの人気のひみつを調べよう！

《疑問に思ったこと》

- ・スーパーで買い物をする人が多いのはなぜかな
- ・お肉屋さんや八百屋さんに買い物に行く人が少ないけど、お客さんは来ているのかな？

**商品**

- ・安い商品がたくさんある。
- ・いろいろな物が売っている。
- ・新鮮なものが置いてある。
- ・一つの品物がたくさん売っている。

**売り場**

- ・売り場が広い。
- ・野菜・肉・魚などまとまって置いてある。

**その他**

- ・特売をしている。
- ・チラシがある。
- ・駐車場が大きい。
- ・ポイントカードがある。
- ・カートがあるから、楽に買い物ができる。

お客さんにも聞いてみたいな。

**調査の準備**

- 小田百のよさを調査する。(グループ)
- 人気のひみつについてわかったことをそれぞれにまとめる。(個人)
- わかったことを伝え合い、スーパーの人気のひみつについてまとめる。
- ・売る人は、買う人のためにいろいろな工夫をしているんだね。
- ・買う人のことを考えて工夫をしているからたくさんの方がくるんだね。他のお店はどんな工夫をしているんだろう。
- ・小田百みたいで工夫をしているのかな？

調査の際は、お店のよさを予想し、調べる計画を立ててから調査に出かけるようにさせる。

**他(コンビニ・専門店)のお店のよさ(工夫)を調べよう！**

○それぞれのお店のよさ(工夫)を予想し、調べる方法と計画を立てる。

**○肉屋**

- ・欲しい量が買える。
- ・肉料理がおいしい。
- ・コロッケがおいしい。
- ・揚げたてを買える。
- ・肉料理を教えてくれる。
- ・お肉のことを教えてもらえる。

**○八百屋**

- ・いろいろな野菜がある。
- ・お勧めを教えてくれる。
- ・おいしく食べる方法を教えてくれる。
- ・新鮮な野菜が売っている。

**○魚屋**

- ・いろいろな魚がある。
- ・お勧めを教えてくれる。
- ・魚料理を教えてくれる。
- ・おまけをしてくれる。
- ・食べやすいように調理してくれる。
- ・新鮮な魚が売っている。

**○コンビニエンスストア**

- ・24時間いつでも開いている。
- ・お金もおろせる。
- ・お弁当やパンやすぐ食べられるものがたくさん売っている。
- ・いろいろな物が売っている。
- ・700円買うとカードが引ける。
- ・とか、キャンペーンをやっている。

○それぞれのお店のよさを調査する。(グループごとに調査)

○それぞれのお店のよさについてわかったことをまとめる。(小田百と比べながらまとめる。)

**○肉屋**

- ・小田百と違って、好きな量を買える。
- ・お客さんと話すことを大切にしている。
- ・トレーにおいて新鮮さを保てるようにしている。
- ・オリジナルのお肉も売っている。

**○八百屋**

- ・全国色々などところから取り寄せている。
- ・小田原の商品も入れるようにしている。
- ・果物も売っている。

**○魚屋**

- ・お客さんと話をしながら売っていた。
- ・新鮮な、生きてるものを売っていた。
- ・目の前で魚をさばっていた。
- ・朝、市場で新鮮な魚を買ってくる。

**○コンビニエンスストア**

- ・すぐに食べられるものを売っていた。
- ・仕事を交代して24時間やっている。
- ・お店は小さいけど、色々な商品が置いてあった。
- ・新しい商品を入れて、お客さんに喜んでもらえるようにしている。

《専門店(肉屋・八百屋・魚屋)の工夫や思い》

- ・他の店にはないこだわりの商品を提供している。
- ・お客さん一人一人の求めに応じて丁寧に対応している。
- ・昔から続くよさを守りながら、新しいものを展開していく努力をしている。
- ・買いに来てくれる人と関わりを大切にしたい。
- ・うちの店の味で、美味しいものを食べてほしい。
- ・こだわりのものを食べてほしい。
- ・安心して食べてほしい。

《コンビニエンスストアの工夫や思い》

- ・消費者が求めるものにいち早く答えていくための商品棚や陳列の仕方を工夫している。
- ・多様な種類の品物を揃えている。
- ・お客さんの求めに応じた商品の仕入れ方の工夫をしている。
- ・たくさんのお客さんに来てほしい。
- ・来てくれるお客さんの要望に早く応えたい。
- ・新しい商品を考えて展開していきたい。

それぞれの店のよさについて、スーパーと比べながら話し合えるようにさせる。

**上手な買い物の仕方を考えよう！** カレーライス or ピザトーストを作ろう！

○お楽しみ会の料理の材料を買う際、自分はどこでどのように買い物がしたいかを考える。  
 ○自分の考えをグループに伝え、グループでの買い物の仕方を話し合う。(本時)

これまでの学習を振り返って、どんなことに気をつけて買い物をすれば、よいか考えさせる。

## 7 実践を終えて

### (1) 単元を通して

本単元の導入では、買い物への興味・関心を高めるため「遠足のお菓子調べ」を行った。予想以上に買い物について興味を持ち、「自分がお菓子を買った店以外のお店にも行って見たい。」「お家の人は、もっと色々な物を買っているけど、どうやってお店を選んで買っているんだろう。」と、消費者の視点になって単元に入ることができた。「買い物調べ」では、それぞれ調べてきた結果を表にまとめた。すると、「遠足のお菓子調べ」でも利用者の多かったスーパーマーケットで買い物をしている家が予想通り多く、個人商店を利用している家が少なかった。児童は、個人商店の利用者の少なさに目が向いた。多くの個人商店がある地域に住んでいる児童は個人商店を利用した経験があり、「美味しい」「おまけをしてくれる」「好きな量を買える」などの情報を持っていた。それなのになぜ利用者が少ないのかという点に疑問を持った。そこで、利用者の多いスーパーマーケットと利用者の少ない専門店のよさや工夫を調べ、比べることにした。はじめに、比べる視点を持つため、利用者の多いスーパーマーケットへ全員で調査に出かけた。普段は見られないお店の裏側も見学させてもらい、お店の人がお客さんの事を考え色々な工夫をしていくことに気づくことができた。また、スーパーマーケットを調査したことで、専門店はスーパーマーケットに商品を届けているのではないかとスーパーマーケットと専門店の繋がりに目を向け、新しい疑問を持った。そこで、次に専門店へ調査に出かけた。今度は、グループごとにそれぞれの専門店(肉屋・魚屋・八百屋・パン屋・コンビニ)へ出かけ調査をした。どのお店でも、親切に優しく教えてもらい、人との関わりに触れた調査活動となった。また、どのお店にもこだわりを持った味があり、お店が小さくても工夫して販売をしていること、お客さんと笑顔で接していることなど、専門店もお客さんの事を考えて色々な工夫をしていることに気づくことができた。それぞれのお店のよさや工夫を知った児童は、消費者として利用をしたいという思いになった。しかし、調査したお店への思いが強く、お店を選んで利用するという考えではなく、調査をしたお店に買い物に行きたいという思いが強かった。そこで、料理の材料を買うという目的を持たせ、買い物について考えることにした。はじめは、専門店を利用することが上手な買い物と考えていた児童が多かったが、お店の場所や買う材料、値段や量、どんな料理にしたいかなどに目を向け、今回の材料を買うのに一番よいお店はどこかを話し合い決めることができた。実際に買い物をすることで、今まで調べてきた情報を基に消費者として切実な問題として考えることができていた。

### (2) 成果と課題

#### ①興味・関心を高める導入

買い物経験の少ない児童の実態をふまえて行った「遠足のお菓子調べ」は、消費者としての「買い物」に対する興味・関心を一度に高めることができ、家の中の「買い物調べ」へ自然と繋がっていった。また、「買い物」について興味・関心を持った児童は、家の中の買い物について行ったり、レシートを見せてもらったり、どうしてそのお店で買い物をしたのかなど質問をしたり「消費者の視点」となって調べてくることができた。また、「買い物調べ」の結果を表にまとめたことでクラスの買い物状況が明らかとなり、専門店の利用者の少なさに児童の知的好奇心が大きく揺さぶられ、切実な問題へと繋がっていった。

#### ②考えを持つための時間の設定

調査活動では、調査に出かける前に予想を必ず立ててから出かけた。そのことにより、「調べたいこと」「知りたいこと」が明確になり、販売者の努力や工夫に目を向けて調べて来ることができた。調査活動で得た情報をまとめる時間を確保し、一人一人が考えを持つことができるようにしたため、意欲的に自分の考えやその理由を伝える姿が見られた。予想をしてから調査に出かけていることもあり、それぞれが予想と比べながら意見を伝え合い、それぞれのお店のよさや工夫を伝え合うことができていた。

しかし、それぞれのお店のよさや工夫を意欲的に調べてきたことから、伝えたいという思いが強くなり、他のグループが調べてきたお店のよさや工夫と比べながら聞くという点で課題が見られた。

#### ③体験の時間の設定

調査活動では、実際にお店へ行き「調べたいこと」「知りたいこと」を自分の目で見て、聞いて調べてくるようにした。お店やお客さんの様子、お店の人の姿や話を実際に見て、聞いて来ることで、消費者や販売者の視点に立って考えられるようにした。また、調査活動の後に自分の考えをまとめていく中で出てきた、「もっと知りたいことができた。」「ここが分からなかった。」という児童の思いを大切に、場合によっては何度か調査に行く時間を設定した。このことで、調査しているお店について詳しく情報を得たり、得た情報を知らせたいという切実な思いを持ったりすることができ、ひびき合いに繋がっていくことができた。

#### ④本時について

調査活動を終えると、多くの児童がお店で買い物をしたいという思いになっていた。そこで、本時では、実際に、カレーかピザトーストを作ることを設定し、その材料をどこで買うとよいか、スーパーマーケットや専門店で調べて来たことを根拠に一人一人考え、グループごとに話し合った。専門店のよさや工夫を調べた直後であったこともあり、専門店のよさに目が向いてしまい、専門店を利用することが上手な買い物であると考えていた児童が多かった。しかし、グループでの話し合いを通して、「このまま買い物をすると、たくさんのお店に行かないといけないから大変だ。」「お店とお店が遠くて、買い物に時間がかかる。」など、専門店を渡り歩いて買い物をする問題点に気づき困るグループや、専門店で買うかスーパーで買うのか意見が分かれてしまい決められずに困るグループが出てきた。そこで、全体での話し合いの時間にし、それぞれのグループで決まったことや、困っていることについて話し合った。その中で「今回の買い物は材料が色々な物だから、1回にスーパーで買ってしまった方が便利だ。」という考えが出た。この意見に反対する、「全ての材料をスーパーで買うのは上手な買い物ではない。」という意見が多く出たが、今まで調べて来たそれぞれのお店のよさや工夫を考えて話し合っていくと、今回の買い物で何を大切にしたいかによってお店を選ぶことが大切であることに気づき、スーパーで一度に買ってしまふのも一つの買い方であるということになった。今までは、専門店を多く利用することが上手な買い物であると考えていた児童も“何を大切にしたいかによってお店を選ぶことが大切”という、「上手な買い物の仕方」の視点を広げることができ、ひびき合いが見られたと感じた。また、困っているグループの問題をみんなで解決したいということになり、「パンをスーパーで買うか、専門店で購入するか」についてみんなで話し合った。スーパーへ調査に行った時のことや、パン屋へ調査に行った児童が報告した情報を思い出し、「自分だったら・・・」といった視点で話し合いを進めていた。一つのグループの問題についてみんなで考えることで、「上手な買い物の仕方」の視点をさらに広げていくことができた。今までの調査活動を、体験を通して行ってきたことで、話し合いでは、今まで調べて来たことを根拠にしながら上手な買い物について考えることができ、消費者としての意識を高めることができた。

しかし、話し合い活動の中では、よい考えを持っていても伝える力に差があり、なかなか考えがみんなに伝わらないことがあった。グループに入り励まして伝えられるように支援をしたり、考えが書かれているプリントを見せて伝えるように励ましたりしてきた。また、十分に伝えられなかった部分は教師の方で捕捉をした。自分の力で伝えられるように「伝える力」を育てていくことは今後も続けて行きたい。

単元を通して、「消費者としての意識を高めていく」という目標は、概ね達成できたと考えられる。また、児童の思いや考えを大切にしながら、学習計画を児童と一緒に立て行ってきたことで、「知りたい」「調べたい」という切実な思いを持つことができた。

しかし、「ひびき合い」については課題が残った。自分の考えをしっかりと持つことができ、意欲的に伝える姿が多くの子に見られたが、他の人が調べて来た情報と比べながら聞くという点で十分でなかったと感じた。今、話し合っていることは何か、話し合いの視点をしっかりと示し、共通理解できたもとで話し合いをすることが必要であった。また、「比べる」手だてとして、板書も重要であると感じた。児童から出された情報を分かりやすく整理し、比べる視点を分かりやすくすることができ、自分が調べた情報を伝えるだけでなく、友だちの情報と比べながら話し合うことができたのではないかと感じた。そのためにも、教師自身が児童の考えをしっかりと聴き取りまとめる力を磨いていくことが必要であると感じた。